

【試験の種類】 (該当項目を○で囲んで下さい。)

前期末試験 後期末試験
追試験 平常試験

2019年 8月2日 実施

金曜日 4 時限

出題者氏名

藤利 夜史

授業科目	持込みの可否	解答用紙	学生番号	氏名	採点
上級簿記	電卓可	同・別			

問題1 次の取引について、仕訳してください。なお、仕訳の必要がない場合は、「仕訳なし」と記載すること。
(各4点×5問=20点)

- (1) 次の資料にもとづいて、連結第1年度(20×1年4月1日から20×2年3月31日)の連結財務諸表を作成するために必要な開始仕訳、および連結修正仕訳をしなさい。

【資料】

- ① P社は20×1年3月31日にS社の発行済株式総数の70%を80,000円で取得して支配を獲得した。
- ② のれんは、支配獲得日の翌年度から20年間で均等償却する。
- ③ 20×1年3月31日におけるS社の個別財務諸表は、次の通りである。

S社の個別貸借対照表			
20×1年3月31日			
諸資産	180,000	諸負債	70,000
		資本金	60,000
		資本剰余金	37,000
		利益剰余金	13,000
	180,000		180,000

- ④ S社の連結第1年度(平成×1年4月1日から平成×2年3月31日)の当期純利益は12,000円であった。
 - ⑤ S社は連結第1年度(平成×1年4月1日から平成×2年3月31日)において3,500円の配当を行っている。
- (2) 当期首において、車両(取得原価240,000円、期首減価償却累計額108,000円、記帳方法は間接法)を下取りに出し、新車両325,000円を購入した。旧車両の下取価額は94,000円であり、新車両の購入価額との差額は翌月末に支払うことにした。
 - (3) 本店は、支店に仕入価額540,000円の商品を積送した。本店の仕訳を漏していただき。なお、振替価格には、原価に10%の利益が付されているが、この振替価格で記帳すること。
 - (4) A株式会社の株主総会において、繰越利益剰余金を財源とした剰余金の配当等が次のように決定された。なお、未払配当金、利益準備金、別途積立金の残高は、それぞれ5,000円、2,100円、1,700円であった。
 - (5) 当期首において、建物(取得原価1,200,000円、期首減価償却累計額720,000円、記帳方法は間接法)が火災により焼失した。なお、この建物には500,000円の保険を掛けているため、ただちに保険会社に連絡をした。

問題2 下記の項目について、2題を選択し、説明してください。(各7点×2問=14点)

※ 選択した問題については、解答用紙の解答冒頭に、問題番号を記載すること。

- (1) ①単式簿記と、②複式簿記とは何かとその特徴を説明したうえで、③複式簿記と単式簿記の違いとは何かを説明しなさい。
- (2) 企業簿記と貸借対照表とが関係を保つためには何が必要かを説明しなさい。
- (3) 収益・費用勘定とは、①どのような取引において生じる勘定かと、②どのような性格を有する勘定かを説明したうえで、③なぜ複式簿記において収益・費用勘定の存在が不可欠であるか、説明しなさい。
- (4) ①複式簿記と単式簿記の違いとは何かと、②複式簿記の形式的特徴と実質的特徴を説明しなさい。
- (5) 複式簿記の手続きにより、二面的に利益が計算できるが、利益の計算方法である、①財産法と損益法について説明したうえで、②名目勘定、貸借複記、と損益法・財産法との関係を説明しなさい。
- (6) 複式簿記の一連の関係を説明しなさい。なお、説明に当たっては、以下のキーワードを用いること。
【キーワード】名目勘定／貸借対照表／損益計算書／損益法／財産法／貸借複記／二面的／自動検証機能
- (7) 財務諸表を作成するに際して、①仕訳をせずに転記した場合に生じる問題点と、②仕訳が必要となる理由を説明しなさい。
- (8) ある取引の発生から、損益計算書・貸借対照表の作成に至るまでの手順を詳細に説明しなさい。
- (9) 試算表のうち、合計試算表と残高試算表は、それぞれどのような目的で作成されるのかを説明しなさい。
- (10) 決算整理とはどのような手続きか、その必要性も含めて説明しなさい。
- (11) 精算表とは何か、その必要性についても、併せて説明しなさい。

問題3 群馬株式会社の決算整理前残高試算表は、精算表の残高試算表欄のとおりである。会計期間は、平成30年4月1日から平成31年3月31日である。以下の資料に基づいて、精算表を完成させなさい。なお、決算にあたって調査をした結果、【資料1】の事実が判明したため、適正な修正を行う。また、【資料2】は決算整理事項である。(30点)

【資料1】

1. 当座預金につき、銀行から取り寄せた残高証明書の金額と帳簿残高の金額が不一致であったため、原因を調べたところ、次の事実が判明した。
 - ① 決算日に現金1,500円を当座預金口座に預け入れたが、営業時間外のため銀行で翌日付の入金として処理された。
 - ② 当社が振り出した約束手形700円が満期を迎え、当座預金口座から支払われたが、当社ではそれを誤って500円と記帳していた。
2. 決算時につき、売掛金期末残高のうち、期中にドル建てで生じた売掛金\$1,000(輸出時の為替相場は102円/\$)がある。なお、決済時の為替相場は95円/\$である。

【資料2】決算整理事項

1. 得意先の倒産に伴い、売掛金のうち、24,000円は回収不能となった。このうち、17,000円は前期に発生したものであり、残額は当期に発生したものである。
2. 売掛金の決済を電子債権記録機関で行うため、取引銀行を通じて債務の発生記録を行っていたが、未処理であることが判明した。
3. 売上債権の期末残高に対して2%の貸倒引当金を見積もる。なお、差額補充法により処理すること。
4. 当社が保有する株式の内訳は、次のとおりである。なお、満期保有目的債券については、償却原価法(定額法)により評価替えを行う。

銘柄	所有目的	取得原価	額面金額	時価	償却期間
● 東京株式会社	売買目的	15,000円	—	19,000円	
● 千葉株式会社	満期保有目的	17,000円	20,000円	17,500円	残り2年
● 埼玉株式会社	支配目的	10,000円	—	12,000円	
● 神奈川株式会社	提携目的	10,000円	—	15,000円	

【試験の種類】 (該当項目を○で囲んで下さい。)

前期末試験 後期末試験
追試験 平常試験

2019年 8月 2日実施

金曜日 4 時限

出題者氏名

藤利 夜恵

授業科目	持込みの可否	解答用紙	学生番号	氏名	採点
上級簿記	電卓のみ	同・別			

5. 固定資産について、減価償却を以下のとおり行う。
- 建物 定額法 (耐用年数 20年、残存価額は取得原価の10%)
 - 機械設備 200%定率法 (耐用年数 5年、期首減価償却累計額 0円)
 - 車両運搬具 生産高比例法 (見積走行距離 80,000km、当期の走行距離 5,000km)
 - 特許権 定額法 (平成26年4月1日購入、耐用年数10年、残存価額はゼロ円)
6. 期末商品の棚卸高は、次のとおりである。なお、売上原価は、三分法を用いて独立した行で計算し、棚卸減耗損および商品評価損は売上原価に含めるものとする。
- 帳簿棚卸数量 2,050個 実地棚卸数量 2,025個
 - 取得原価 350円 うち、1,725個の正味売却価額 320円
300個の正味売却価額 310円
7. 決算により、以下の引当金を設定する。なお、賞与引当金の設定金額、当期12月から来期6月までの6ヶ月分の価額を示しており、決算にあたり、この設定金額にもとづいて、当期の賞与引当金を計上する。
- | 引当金 | 設定金額 |
|-----------|----------|
| ● 賞与引当金 | 240,000円 |
| ● 退職給付引当金 | 900,000円 |
| ● 修繕引当金 | 75,000円 |
8. 借入金から生じた支払利息のうち、当期分の未計上額が1,250円ある。
9. 支払保険料は、当期6月1日に翌期5月末日までの1年間分を支払っている。
10. 株主総会において、資本金125,000円をその他資本剰余金とする決議がなされていたが、これにともなう処理がなされていなかった。
11. 税引前当期純利益の40%を、法人税、住民税及び事業税として計上する。なお、仮払法人税等に計上されている価額は、前年の納付額の半分を中間納付したものであり、未払法人税等から差し引く。

<問題2>

【試験の種類】(該当項目を○で囲んで下さい。)

前期末試験 後期末試験
 追試験 平常試験

2019年 4月 2日 実施

金曜日 4 時限

出題者氏名

藤利 夜恵

授業科目	持込みの可否	解答用紙	学生番号	氏名	採点
上級簿記	電卓のみ	同・別			

(Area with horizontal lines for writing answers)

